

テクノプロ・ホールディングス株式会社

テクノプロ・グループ 非公開化に向けた方針

2025年8月6日

◆説明

八木： テクノプロ・ホールディングス代表取締役社長兼 CEO の八木です。どうぞよろしくお願いたします。

本日は、「2025年6月期の通期決算」及び「現在の事業環境と中期経営計画の進捗」の説明ではなく、当社の非公開化に係る内容とその背景や目的について、皆様に直接お話ししたいと考えています。

当社による公表内容抜粋

2025年8月6日付の当社適時開示資料
「ビー・エックス・ジェイ・イー・ツー・ホールディング株式会社による
当社株券等に対する公開買付けに関する賛同及び応募中立の意見表明のお知らせ」

主な公表内容

- 当社株券等に対する公開買付けに関して、当社は賛同の意見を表明するとともに、当社の株主の皆様が公開買付けに応募するか否かについて中立の立場をとる旨を決定
 - ✓ 公開買付価格4,870円は、当社の非公開化に関する憶測報道（2025年5月15日の立会時間終了後）日の終値3,389円に対して43.7%のプレミアム
- 当社は公開買付者（ビー・エックス・ジェイ・イー・ツー・ホールディング）の完全子会社になり、年内に非公開化（=上場廃止）の予定
- 公開買付者は、プライベート・エクイティ・ファンドであるブラックストーンが管理、助言又は運営するファンド傘下の国内法人

注: 詳細は、上記適時開示資料をご参照ください。
 また、本件に関連し、本日付で「期末配当予想の修正（無配）に関するお知らせ」及び「中期経営計画の前倒し終了及び業績連動型譲渡制限付株式報酬制度の廃止に関するお知らせ」を開示しておりますので、併せてご確認ください。

「ビー・エックス・ジェイ・イー・ツー・ホールディング株式会社による当社株券等に対する公開買付けに関する賛同及び応募中立の意見表明のお知らせ」に記載のとおり、本日開催された当社取締役会において、グローバルなプライベート・エクイティ・ファンドであるブラックストーンによる当社株券等に対する公開買付けに関して、当社は賛同の意見を表明するとともに、当社の株主の皆様が公開買付けに応募するか否かについて中立の立場をとり、株主の皆様への判断に委ねる旨を決議しました。

公開買付価格は、1株当たり4,870円、当社の非公開化に関する憶測報道のあった5月15日の終値3,389円に対して43.7%のプレミアムに相当します。この公開買付けが成立した場合、会社法に基づくスクイズアウト手続によって、当社は公開買付者の完全子会社になり、年内にも非公開化、すなわち上場廃止となる予定です。公開買付者であるビー・エックス・ジェイ・イー・ツー・ホールディングは、世界最大規模を誇るオルタナティブ投資運用会社であるブラックストーンが管理、助言又は運営するファンド傘下の国内法人になります。

なぜ非公開化を戦略的に選択したのか？

- 外部環境 -

技術系人材サービス事業にとっての脅威

国内技術者市場の
需給逼迫

AI/デジタル化の
急速な進展

- 成長戦略 -

中長期的な飛躍に向けて、脅威を機会に変えるための大胆な先行投資が不可欠

- ✓ エンジニアの成長とキャリア形成をサポートして、処遇を一段と向上
- ✓ 高付加価値化に向けたサービスモデルの革新、当社ならではの差別化

- 外部環境の想定以上の変化に適時適切に対応するには、株主から短期的利益を重視される傾向にある上場維持前提では、一定の限界に直面
- スタンドアローン経営に固執せず、最良のパートナーのリソースやケイパビリティを活用しながら、先んじた構造改革を大胆に加速する必要性

次のスライドは、当社が非公開化を戦略的に選択した背景を示しています。当社は、約10年前の2014年12月に東証一部に上場して以降、現中計期間もそうですが、株主を始めとするステークホルダーの皆様に支えられ、着実に成長・進化してまいりました。

しかし、国内技術者市場の需給逼迫やAI/デジタル化の急速な進展といった、当社グループを取り巻く脅威が急速に増しつつあります。こうした外部環境の想定を上回る変化に直面しつつも、非連続的な飛躍を遂げるためには、脅威を機会に転換する大胆な先行投資を加速することによって、エンジニアの成長とキャリア形成のサポートに基づく処遇の更なる改善や、高付加価値化に向けたサービスモデルの革新が不可欠です。

一方、株主から短期的な利益追求を迫られがちな上場を維持する前提では、一定の限界があることも認識しています。よって、上場企業としてのスタンドアローン経営に固執することなく、最良のパートナーと強固なタッグを組んで、スピーディに構造改革に取り組むことを目的として、今回の非公開化の決断に至りました。

非公開化により何をを目指すのか？

経営課題の解決に最良のパートナーと取り組むことで、中長期的な企業価値を最大化

経営課題	成長機会	パートナーとの取組み		
ソリューション事業の拡大	✓ 多様な技術領域のエンジニア基盤	高付加価値組織の強化	AI武装による事業モデルの再定義	より一層の人的資本投資
	✓ 売上単価水準の引上げ余地の大きさ	M&A/アライアンス		
供給制約の解消	✓ エンジニアの育成力	育成機能の拡充	大胆なDX投資による業務生産性の向上	
	✓ AIによる効率化余地と差別化可能性	オフショアリング		
ITデジタル化の推進	✓ “現場力”を強みとする高稼働率と成長の両立	大胆なDX投資による業務生産性の向上		
	✓ ベストプラクティスの共有化を含む、グループ横断の最適化余地			

Copyright © TechnoPro Holdings, Inc. All rights reserved.

3

ここで、非公開化によって当社が目指すべき方向性は、中長期的な企業価値の最大化です。

外部環境の急激な変化を背景に、当社には対処すべき3つの経営課題があると考えており、具体的には、「ソリューション事業の拡大」「供給制約の解消」「IT デジタル化の推進」になります。

これら喫緊の経営課題に対し、現中計において、当社がこれまで築いてきたアセットやケイパビリティを活かした当社単独での取組みを鋭意進めてまいりました。しかし、ベストパートナーのネットワークやリソースを積極的に活用することで、経営課題を克服しつつ、成長機会にも変えられると判断しました。すなわち、売上単価水準の引上げ、AIによる効率化と差別化、グループ横断でのオペレーションの最適化などの実現です。

ブラックストーンと一緒に、モビリティ等の分野における高付加価値組織の強化、M&A/アライアンスの推進、育成機能の更なる拡充とインドを活用したオフショアリングの拡大、AI武装による事業モデルの再定義、大胆なDX投資による業務生産性の向上、更にこれらを支える人的資本への投資を加速することで、当社の持続的な成長可能性が今よりも高まると確信しています。

どのように実現するのか？

成長に向けてフルスイングし、成長モデルのトランスフォーメーションを実現する上では、最良のパートナーと合意した基本方針が礎になる

テクノプロ
ファースト

- **テクノプロを主語に**

- ✓ テクノプロ・グループ・パーパス「『技術』と『人』のチカラでお客さまと価値を共創し、持続可能な社会の実現に貢献する。」のより発展的な実現

事業成長
第一主義

- **成長最大化に向けた大胆な投資の全面支援**

- ✓ M&A予算1,000億円超、AI/デジタル投資100億円超
- ✓ パートナーの人的リソースやネットワークの活用

パートナー
シップ哲学

- **役職員・顧客等が「共に働きたい」会社へ**

- ✓ インセンティブプラン
- ✓ 従業員が成長する土壌
- ✓ 顧客へ提供する技術価値の向上

Copyright © TechnoPro Holdings, Inc. All rights reserved.

4

ブラックストーンは、このような当社の中長期的な企業価値の最大化を図る上で、3つの方針を掲げています。

一番目は、テクノプロファーストです。当社を主語とし、当社自体の売上・利益成長を最優先することに加えて、当社グループのパーパスである、「『技術』と『人』のチカラでお客さまと価値を共創し、持続可能な社会の実現に貢献する。」を堅持します。

二番目は、事業成長第一主義です。当社の成長最大化に向けた大胆な投資を全面的に支援し、大規模なM&AやAI/デジタル投資、ブラックストーンの人的リソースやネットワークによるレバレッジが期待できます。

そして最後に、パートナーシップ哲学です。役職員や顧客を含む全てのステークホルダーを“パートナー”として尊重し、それぞれにとって「共に働きたい」会社を目指します。インセンティブプランによる動機付けのみならず、従業員の弛まぬ成長や顧客提供価値の向上を志向します。

これら3つの基本方針は、信頼あるパートナーとともに、成長に向けてフルスイングできる環境を整え、当社の成長モデルのトランスフォーメーションを推進する上での礎になると考えております。

戦略的パートナーについて

当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上の観点から、世界最大級のPEファンドであるブラックストーンと強固なタッグを組むことが、最良の『戦略的選択肢』と判断



ブラックストーン

- 世界最大規模を誇るオルタナティブ投資運用会社
 - ✓ エクイティ総額約176兆円の資産を運用
 - ✓ プライベート・エクイティ・ファンドは、グローバルに約56兆円を250以上のポートフォリオ企業にて運用
- NYSE上場、S&P500の構成銘柄に選定
 - ✓ 時価総額約27兆円

注: 2025年6月30日現在、1ドル145円換算

世界・日本において、AI/デジタル化等の豊富な成長支援実績








Copyright © TechnoPro Holdings, Inc. All rights reserved.

5

改めて、ブラックストーンについてのご紹介です。

同社は、1985年に設立された、世界最大規模を誇るオルタナティブ投資運用会社です。2025年6月30日時点でエクイティ総額約176兆円の資産を運用しており、投資家の多様なニーズに応えるために、プライベート・エクイティ・ファンド、不動産ファンド、ヘッジファンド・ソリューション、クレジット関連投資等をグローバルに展開しています。

プライベート・エクイティ・ファンドは、グローバルに約56兆円を250以上のポートフォリオ企業にて運用しているとのこと。ブラックストーンは、高い競争力、成長性、付加価値の創出能力を持った企業に着目し、その強い競争優位性のある基盤に、必要に応じてブラックストーンの有するグローバルネットワークや各種経営資源を機動的かつ集中的に提供し、更なる成長の実現を目指しています。

今回、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上の観点から、スタンドアロン経営を含む様々な戦略的選択肢を検討する過程で、株主の皆様合理的に説明し得る公正なプロセスを実施し、ブラックストーンを最良のパートナーとした非公開化手続の開始を決断しました。また、株主利益の確保の観点からも、株主の皆様のご検討に値する公開買付価格をブラックストーンから提示

いただいたと考えておりますので、ご検討のほどよろしくお願い申し上げます。また、当社に対してこれまで、資本市場の視点に立ったご助言とご支援を賜り、誠にありがとうございました。

非公開化に向けた方針に関する私からの説明は、以上となります。

[了]